

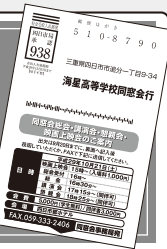


同窓会だより

〒510-0882 四日市市追分1丁目9番34号 Tel.059-345-0036 Fax.059-347-2989
<http://www.kaiseiob.com>

平成29年度海星高等学校同窓会総会・講演会・懇親会

**同封の
はがきにて
出席申込を
お願いします。**



＜メールからも参加申し込みができます＞
メール本文に「平成29年度総会に参加します。」の1文と氏名、卒業年(卒業年度、卒業回も可)をご記入の上、送信してください。

送信メールアドレス：
tokiwa-s@cty-net.ne.jp

日時／平成29年10月21日(土)
受付／16:00～
総会／16:30～
記念講演／17:15～(同伴可)

講師 伊藤有紀さん(46回生)
演題 「海星の映画青年が映画監督になるまで」

懇親会／18:25～20:00(同伴可)
会場／四日市都ホテル(伊勢の間)
会費／5,000円
(学生無料／同伴者3,000円)



講師の
プロフィール

伊藤有紀
一九七九年、桑名市生まれ。日本大学大学院修士課程修了。映画・ドラマの助監督を経て、フリーのディレクターとして活動を開始。番組の博多ロケが縁で福岡に移住し、テレビCM制作に携わる。長編映画第一作「まちや紳士録」は全国で劇場公開。最新作「人情噺の福団治」が現在公開中。

伊藤有紀監督 最新作 「人情噺の福団治」上映会

記念講演会の開催に合わせ、伊藤有紀監督の最新作を上映します。「太陽」を目指さなかった「月」の落語家、四代目桂福団治。四日市出身でもある彼の芸と人生に迫ったドキュメンタリー映画「人情噺の福団治」。ぜひご覧ください!



- とき 10月21日(土) 15時～
- ところ 四日市都ホテル「金扇の間」
- 入場料 1,000円(同窓生以外の入場も可)

今年度は2年に1度の総会開催年にあたります。
総会は決算、予算、役員更改などの審議を通じて同窓会運営の基本方針を決める大切な行事です。奮ってご出席ください。また、総会後に開催される懇親会では、幅広い世代から集まった大勢の同窓生が、美味しい料理やお酒に舌鼓を打ちながら、近況を語り合ったり、思い出話に花を咲かせたり。恩師の先方も多数ご出席くださいませ。恒例の記念講演会には、意欲的なドキュメンタリー映画の制作に取り組んでおられる映画監督の伊藤有紀さんをお招きし、今に至る道のりや映画制作の裏話などをうかがいます。2年に1度の貴重な機会です。みなさまお誘いあわせのほどです。

同窓会懇親 ゴルフコンペ

第15回懇親ゴルフコンペを以下のとおり開催します。みなさんふるってご参加ください。
■開催日 平成29年11月16日(木)
■開催場所 三鈴カントリー倶楽部(鈴鹿市小社町七六七・東名阪鈴鹿インターより車で4分)
■プレー代 二〇〇〇円(税別)
(キャディ付乗用カートプレー代・昼食券・パーティー時1ドリンク付き)
■会費 三,〇〇〇円(税別)
(賞品代・パーティー料(代理))
■お問い合わせ・お申し込み
コンペ実行委員会・水谷...メール
info@mizutaniiseikan.com
FAX 059(033)2400

これからのリユース型社会のお手伝い
価値あるご不要品の買取はモノマニアグループへ!

リユースショップ モノマニア MONOMANIA
朝日店 Tel.059-376-2822
四日市店 Tel.059-347-4333

モノマニア MONO MANIA 2nd
Tel.059-376-2733
ホームページもご覧ください! [モノマニア](#)

リサイクル&アウトレット もの創庫
Tel.059-349-5055
三幸株式会社 代表取締役社長 松平紳太郎

サンジルス 日本風味 世界の調味

本社 / 〒511-0823 桑名市明正通 1-572-1
TEL 0594-22-3333
FAX 0594-23-3333
<http://www.san-j.co.jp/>

サンジルス 醸造株式会社

サッカー部 完全ドキュメント 12・31

選手権初出場 あのととき彼らは、そのとき僕らは

創部55年目にして、初の全国選手権を戦った海星高校サッカー部。監督と選手たちは、いかにして「その日」を迎えたのか。同窓生たちは、いかにしてその戦いを見届けたのか。それぞれの思いが交錯した12月31日、浦和駒場スタジアムまでの道のりを、監督への独占インタビューと同窓生の手記をもとに追った。



▲眠らない深夜の応援バス。

「僕の母校が、今年はお出でです。」
海田修平(41回生)は、知り合いの記者に得意げに話していた。絶対に応援に行こう。妻と息子を連れて、東京から車を走らせた。
下村和也(50回生)は、フットサル仲間5人を誘い、同じく会場に向かっていた。真予選の映像は、事前にチェック済みである。
森勇仁(59回生)がサッカー部の同期4人と乗り合わせて四日市を出たのは、試合前日の21時。互いの近況報告や思

い出話に花を咲かせつつ、海老名SAまでノンストップ。午前2時に埼玉に到着し、スーパースタジアムの酒臭い仮眠室で就寝。7時半に起床し、モーニングを食べ、会場へ向かった。
山下邦男(23回生)は12月30日の早朝に四日市の自宅を出発していた。久しぶりの夫婦2人での旅行だった。築地市場へ行き、浅草寺で必勝祈願。夜は新橋の居酒屋で妻と晩飯を楽しんだ。31日は朝からスカイツリーに登り、朝日に必勝祈願。富士山がこんなに近くに見えるなんて、幸先がいい。

四日市発の一般応援バスで向かっていた福井茂人(29回生)も名古屋から新幹線に乗り込んだ小川真也(23回生)も、快晴の車窓から見える富士山に、一様に心を奪われていた。あんなに綺麗に見える富士山は、初めてだった。
伊藤翔太(52回生)は、現地の応援を希望した生徒たちの引率教員として、試合前日の23時に学校を出発したバスに乗っていた。午前3時を過ぎても車内の生徒たちはハイテンション。ようやく寝静まった頃に体調不良を訴える生徒が現れて、その対応に追われて、一睡もできずにいた。

12月30日、Bチームは浦和学院で練習試合を行った。強豪を相手に2戦2勝という結果が、海星サッカー部の全体的なレベルの向上を物語る。彼らはAチームの応援に合せて遠征を組んでいた。来年こそ自分もと心に秘めつつ、明日は仲間のために精一杯の応援をする。皆が

心に誓っていた。「こっちや! もうすぐ始まるで!」試合開始前の駒場スタジアムには、懐かしい顔があふれていた。小林一憲(49回生)は、その中に同級だった清水智大(49回生)の姿を見つけた。サッカー部顧問・田中秀二(17回生)とも固い握手を交わす。長く顧問を務め、ようやく手にした選手権の切符。その感慨の深さと強い意気込みが、ひしひしと伝わってきた。ウオーミングアップへ向かう2年生FW三輪翔真に拳を突き出し「私には滅多に会いに来ないのに、母校の応援には来るのね」なんて言われようとも。

と5分、海田修平は駆け出して、予定通り試合開始1時間前に会場近くへ到着していた。が、近隣の駐車場は軒並み満車。仕方なく少し離れた駐車場からバスで向かうことにした。だが、バスに乗ったとき、時計の針は11:45。
ダメだ、間に合わない。肩を落としながら、それでも、道中に聞こえてきたホイッスルと歓声が、彼の胸を躍らせた。急いでスタジアムに入ると、メインスタンド中央は既に埋まっており、相手ゴール前付近の席に陣取った。

「普通に、やられますよ」
かつての教え子の言葉に、青柳隆(35回生)は笑いながら返した。
「普通には、やられますよ」
かつての教え子の言葉に、青柳隆(35回生)は笑いながら返した。
「普通には、やられますよ」
かつての教え子の言葉に、青柳隆(35回生)は笑いながら返した。



▲スタジアムの電光掲示板に出場を実感。

長島いちご生産販売

0594(42)3925
http://www.norakura-farm.com/

株式会社 ニューポート

TEL:059-345-1401

給食、レストラン部門、
弁当・受託部門(社員食堂、厚生施設)

同窓会公式ウェブサイト「サッカー部完全ドキュメント 12・31」更に濃密なノーカット完全版を公開中!
http://www.kaiseiob.com



▲ピッチを見守る海星の応援団。

聖和学園が手強いチームであることは百も承知だ。対戦を控え、試合映像の研究はもろろん、同じくドリブル主体のサッカーを標榜する野洲高との強化試合も行っていった。前半はまさにその対策が功を奏した。聖和の選手がボールを持った瞬間、複数でチエック。一気にゴール前へ持ち込めど、シュートを返された。先制点が生まれ、先制点がかしくはなかった。それに対し、聖和は思直なまでに自分たちのサッカーを貫いていった。これは「あるいは、現地で、あるいはテレビで見ても、多くの同窓生が、そう思っていた。青柳も

選手たちも手応えを感じていた。野洲の方が強い。前半を終えて、選手たちからはそんな感想が漏れていたという。ただ、数多くのチャンスがありながら、1点を取ることができずにいた。初の大舞台に緊張していたのだろ。青柳は「うか？ 青柳はきつぱり？ 否定する。全然いつもと変わらん。驚くほどのびのびとプレーできていた。あそこで決められへんのが海星やねん(笑)」

たちが大舞台に物怖じしない。因かもしれない。しかしながら、た一人FWの三輪に、ガチやつた」と振り返る。今予選でもチーム最多得点を記録していた2年生エースは、メディア取材などの機会も多く、重圧もあつたのではと青柳は推し測る。そんな中でも、三輪の存在は際立っていた。前線でタメをつくり、タイミングのいい動き出しでボールを引き出しながら、時には下がってゲームメイクにも参加しており、2トップを組む水谷恭平や、左サイドハーフの伊藤蓮らとともに、攻撃の中心を担っていた。テレビでは、前半を終えての監督コメントが流れていた。「監督！ どうです？」

「あそこ決めるだけなんやけどお！ 頼むわ〜って」そう言つて笑つた。当時の情景が、ありありと目に浮かぶ。

その頃、北海道のとある牧場で、谷川翔大は馬房を作るため、藁を敷きながら、母校に想いを馳せていた。家庭の事情で転居したため、海星を卒業することは叶わなかったが、幼い頃からサッカーに親しんできた谷川にとつて、選手権は年の瀬の一大イベントとなつた。出場を記念してつくられた携帯ストラップを購入し、当日には試合開始前は昼休みであつ



▲弾丸応援ツアーの森勇仁(左から2人目)ら

たため、携帯を片手に試合経過を確認できた。現地の熱気が、雪深い北海道にも伝わってくる。昼休みが終わる。もう携帯を確認する。はしまったが、ストラップは眩いばかりに輝いていた。

後半はオープンな打ち合いで幕を開けた。聖和が得意のドリブルを、中心とした攻撃でシユートに持ち込めば、GK中村勇之介の好セーブで難を逃れた。海星はその直後、三輪がドリブルで持ち上がり、左サイドを駆け上がった。水谷へラストパス。ゴールを巻くように放たれたシュートは惜しくも外れ

たが、得点の匂いを感じさせた。しかしながら、海星のプレスをかいくぐり、聖和がシユートチャンスを迎える場面が増え始める。そんな中、聖和の一切り札、西堀選手の入りが、試合の流れを一変させる。「聖和学園じゃなくらい早かつた」

青柳がそう評する。青柳がそう評するように、スピードに乗った細かいドリブルを武器に、10番は海星ゴール前を混乱に陥れていく。彼が入ってくる前に、2点取つておきたかつた。(対峙するDFも)お前のサイドで来るぞ！ と言ってたんやけど」

その、対峙したDF星野皓輝には、密かに女性ファンが生まれていた。目の前を疾走する姿に声援をおくるフットサル仲間の女子を横目に、下村和也は後輩を羨んでいた。

後半20分を過ぎたあたりから目に見えてプレスが効かなくなりはじめた。海星はMF木根原斎を送り出し、再び中盤の活性化を図る。

初めてインタールハイに出場したと

社会福祉法人フジ福祉会

フジ保育園

三重県四日市市東坂部町150-4
TEL: (059)331-4128

鳥金

良き食の品を伝えたい。
松坂牛協会会員指定第 425 号 426 号

- 本店 四日市市新町1の10 Tel.059-352-4644
- 松本店 四日市市松本2丁目6-26 Tel.059-352-2983
- 中部近鉄百貨店 四日市店 Tel.059-353-5151

陶器木箱・食品木箱・モミ木箱・焼杉・製造販売

MSK 水谷製函株式会社

四日市市別名 5-4-37 059(331)6550

[機械部品加工]

(有)常磐精機

☎ 059-352-4547

同窓会公式ウェブサイト「サッカー部完全ドキュメント 12・31」更に濃密なノーカット完全版を公開中!
<http://www.kaiseiob.com>

「彼はともともと巧い選手。ディフェンスのチェックが2回遅れたのが原因」と、青柳は冷静に

「一度もチャンスがありません。0-0で試合終了。そろそろやられるんちゃうか。」

後半35分、その予感が的中する。ペナルティエリア手前でボールを受けた聖和の藤井選手が左からやや中央寄りに進むと、右足を一閃。放たれたシュートは右に弧を描いてゴールへと吸い込まれていった。「あれ？入った？」下村和也は友人たちと思わず目を見合わせていた。それまで再三、好守でチームを救ってきたGK中村が一步も動けないスパーゴールであつた。スタンドから見ていた山下邦男は一瞬、何が起きたのか、理解できなかつた。

振り返る。その後には、海星の左サイドを突破され、西堀選手に決定的な追加点を決められる。ここで海星は、FW武永健佑をピッチに送り出す。「足速いし、ひょっとしたら決めてくれるかな」と、最後まで諦めることなく前がかりになつたことで、その後も立て続けにピンチが訪れた。しかしながら至近距離からの強烈なシュートはDF星野が体を投げ出して防ぎ、GKまでかわされた絶命の場面でもDF深川瑠夏が懸命に戻つて事なきを得た。

「きつところまで踏ん張れるようになった。メンタル面の成長が大きい」選手権の切符を初めて手にすることとなつた、チームの要因を、青柳はこのように分析する。微妙な変化を感じ始めたのは県予選前の10月、関西遠征のあたりからだつた。選手権常連校との数試合で、それまで精神的に「ゆるい」と感じていた選手たちが、相手の攻撃を「ね返す」力をつけて

26歳で海星サッカー部の監督に就任して22年。就任当初は紅白戦もできないほどの部員数だつた。海星へ行くことが決まると、尊敬する城監督から「まず、10年頑張れ」と言葉をかけられた。有望な選手を獲得すべく、精力的に中学校を回つた。最初は「海星なんか」となりあつてもうえなかつた。しかし、

いることに気付いた。もともと点は取れるチーム。ディフェンスが安定すれば、県予選もいけるのでは。という、かすかな期待が生まれた。実際、その後の県予選はたつたの3失点という結果で、念願の選手権出場を決めることができた。



▲後輩たちに熱い視線を送る福元陽治。

地道な活動が実を結び、部員数も徐々に増え、奇しくも10年目に新人戦で優勝することができた。今でも、中学校への視察は毎日のように行つていく。「海星なんか」と言われた頃、海星だつたら、という反応に今は変わつていく。監督同士の懇親会にも顔をだし、人脈づくりに余念がない。そうして得られたコネクションが、強豪校との練習試合を実現させ、チーム強化の一因となつていく。

のインターハイ予選でも3-0で勝利している。三重県内の勢力図は、急速に変わり始めている。

試合後のロッカールームでは、やはり泣いている選手もいた。しかしその表情は「やりきつた」という印象の方が強かつた。青柳は記憶している。

「海星サッカー部で学んだ『攻めの姿勢』は今の自分のモットー。これからも攻めの姿勢を大切に悔いのない高校サッカー生活を送つてほしい。森勇仁は、前夜からの興奮冷めやらぬまま、

後輩たちにエールを送る。もつともつと勝ち続けて、さらなる高みを目指してほしい。そしてまた応援に駆け付けたい。弾丸ツアーはいつまで続けられるか分からなければ、伊藤翔太は、学校応援バスでの生徒引率を終え、自宅へ向かつていた。復路の車中は、必死の応援の甲斐あつて生徒も教員も熟睡。心穏やかに過ごすことができた。後に聞いた話では、別の車内は「紅白が観たい」だの「年越しに、賑やかなことに、賑やかなことに、うだ。帰宅し、時計を見る。あと20分で年が明けると、年越しそばを啜りながら、ようやく1年の業務が終了したことに充足感を覚えていた。

「あのパスがすごかつた。あいつが巧かつた」海田修平は、小学2年の長男からそんな感想が聞けたことに少し驚いていた。これまで、日本代表の試合にも連れていったこともあつたが「疲れた」と言うばかりだつた。その長男が、海星の試

合は面白かつたと言つた。近い距離で観られたぶん、同じくサッカーをしている身として心情的に共鳴するものがあつたのかもしれない。また、連れてきてあげたい。そのためにも、来年も海星がこの舞台に出られるようにと、心から願つていた。そのとき、この子はどんな言葉で「お父さんの学校の試合を語るようになっていくのだらう。そんな楽しみも、胸に抱きながら。」

(文/荒木佳惟 52回生)

SAFETY・SPEEDY・SINCERITY

朝日土木株式会社

〒510-0033 三重県四日市市川原町32番1号
Tel.<059>331-1146 (代)

菰野出張所・鈴鹿出張所・伊勢出張所・三重リサイクルセンター

中部住研株式会社

■本社	四日市市青葉町780-4	☎059-352-1220
■ときわ営業所	四日市市ときわ4丁目4-7	☎059-340-3370
■阿倉川営業所	四日市市西阿倉川1673-1	☎059-337-8661

同窓会公式ウェブサイト「サッカー部完全ドキュメント 12・31」更に濃密なノーカット完全版を公開中!
<http://www.kaiseiob.com>



▲在りし日の「植木屋さん」。



今さら聞けない 海星Q&A 第2回 「植木屋さんのこともろもろ」

学校の正門を出てすぐ、修道院を過ぎたところ。今は新築の住宅が建っていますが、そこには7月半ばまで古い建物があり、数年前までは駄菓子屋さんが営業していました。そう、海星高校に通う人間にとって馴染みの深い「植木屋さん」です。決して植木職人の家でも、植木の販売をしていたわけでもなく、「植木屋さん」のお店ということでそう呼ばれていました。昔は当たり前だった光景も、今では思い出の中のものとなつてしまいました。

そこで、今回は「植木屋のおばちゃん」の御子息である植木利夫さん(現体育科)で、中学野球部の指導もされている植木大史先生のお父様(に、往時を懐かしみつ)「植木屋」のあれこれをうかがいました。

て、それでもええかなつて。それどころから営業されていたのですか？
▲四十七、八年前です。ね。それまで住んでいた日永から引越してきまして、父親の定年退職と同時に家を建てて。もともとはカネボウに勤めてましたが、「あそこでやたらどうか」というカネボウの購買の方の紹介で始めました。そんなわけで、ジューズ屋さんやアイスクリーム屋さんなんかはカネボウからの紹介です。僕は店を始めることに大反対だったんですけどね。でも、結局押し切られました。「フシが死んでもお母さんが食つてけるやろ」と言われて。



▲店頭で寛く若き日の筆者。

「店をやめられた契機とは？」
▲親父が死んだもんで。もう、八年くらい前になりましたね。「もう店をやめたい」と。母は父の世話をしながら店を切り盛りしてまして。だいぶ無理してたみたいですね。父の体の調子が悪かったりするて寝てない日もあつて。それまではやめる「なんて言うたことなかつたですけどね。」
▲よく売れた商品はなんでしたか？
▲清涼飲料の五百mlの缶を手売りとしてトツカーで売つたんです。チェリオの「セーフガード」とダイドーから出てるのはめっちゃ売れました。ホントによつて売れました。冷やすのが追いつきませんでした。それだけで月30〜40ケースくらい。コカ・コーラの商品も置いてました。チェリオの商品がよく出ました。あと、アイスクリームですね。夏冬関係なく、冬でもよく売れましたね。
▲「店をやつて良かった」と感じたことはありましたか？
▲うちは、若返るっていうんですか？3年間で(生徒が)どんどこ入れ替わるでしょ。いつも同じ年代としゃべつてる。「また来たよ」とOBの人がしゃべつてくれたりする。「懐かしいな」と喜んでました。あと、海星の先生になつた方とか。「あの子は小さいときあんなややつたよ」とか「学校通つたときはどうのこのう」とか言うてましたよ(笑)。
▲買ひ食いについては学校からも「暗黙の了解」みたいに許してもらつてたみたいです。たまに休み時間とかにジューズを買いに来た学生もいたよですけど。だから、学生も「ここで万引きがでやんなわ」と言つてたらしいですね。学生さん相手なら10円、20円の細かい計算が多かつたですからね、80歳くらいでも計算なんかは速かつたですね。だからボケませんでした。

▲逆「しんどかつた」と言つては？
▲学生が途切れず次々入れ替わりで来てくれるんで、ゆつくりすることがなかつたです。テニスが来て、サッカー部が来て、柔道部もいましたね。それで最後に野球部が来て。それが一連で終わつて片づけると21時半くらい。それからみんなで食卓を囲んでいました。しんどかつたと思います。



▲おじちゃん(左上)、おばちゃん(右上)と植木先生(右下)。

昔はジューズはみんなコップに入れて飲んでたんですよ。だから、私が仕事から帰ると、延々とコップ洗いで、てんでこ無いでしたよ。たぶん、それも店が南側に移転するまででしたね。

今回の取材を思い立つたのは、昨年「植木屋のおばちゃん」の訃報に接したときでした。おばちゃんは野球部が甲子園に出場するのを本当に楽しみにしておられ、出場記念のペナントを店に貼るのを楽しみにしておられたそうです。半世紀近く店に立ち続け、最期は93歳で眠るように亡くなられたそうです。今回取材させていただいた筆者自身「植木屋」の思い出はたくさんあります。お話をうかがった部屋に掲げられた遺影は、在りし日のおばちゃん、懐かし、優しい、柔らかな表情でした。その声もまだしっかりと記憶にあります。部活終わりに相撲中継と一緒に見せてくれたおばちゃん、教員として母校に帰ってきたときにも、「戻つてきたんやねえ」と、声をかけてくれたおばちゃん。そんな、とても優しくなつた「植木屋のおばちゃん」に感謝をしつつ、またご冥福をお祈りしつつ、ペンを置かせていただきます。

 **翔英学院** 幼児～高3

学院本部校 三重県桑名市中央町 1-12
TEL.0594-23-2313(代)
<http://www.exceed1.co.jp/>

 **池畑運送株式会社**

四日市市新正3丁目12番3号 Tel.059-353-7566

恩師をたずねて第9回 川村浩晏先生

仰げば尊し我が師の恩。引退された恩師を訪ねて近況をうかがう好評企画の第9弾！今回お目にかかったのは「海星スクワット」生みの親、川村浩晏先生です。

毎川団地の静かな通りに川村浩晏先生（在職一九六五〜二〇〇九）のお住まいはありました。風格ある赤煉瓦の塀。端正に刈り込まれた庭の木々。先生のお人柄がそのまま表れたようなお屋敷の構えに、早くも背筋が伸びました。

した60年代前半には県内でも次々に私立高校が開校。教員の確保が各校の重要課題となりました。一足先に開校していた海星高校も、様々な人脈を使って優秀な新人教員を探していました。

当時、海星の教頭を務めていた稲垣栄三先生がお父様のお友達で、しかも「ぜひ海星へ」と直談判に訪れた体育科の中村晏先生は、お父様の教え子だったとのこと。

「周りがうるさいもんで、ガンの検査全部したけど問題なし」
「痩せた理由は「DNA」と断言する川村先生。聞けば、ご両親もご兄弟もみなさん60歳を過ぎた頃からお痩せになったのだとか。

「縁を大切に考えた川村先生は海星への就職を決心されました。一九六五年、東京オリンピックの翌年のことです。

「私学の数が増えてきた頃で、県の一次試験に受かったヤツはひっぱりだこやったん」
高校進学率が上昇

川村先生の専門競技は「器械体操」。体操競技で日本勢が大活躍した直後です。から「体操」ができる新人、川村先生は特に注目されました。

「あんなん見せてくれ」とかよく言われたわね」
鯉のぼりよろしく水平に身体を支えることができないらしい。そんな噂を聞いたこ

とがありました。「やっつとたよ。『できたら成績「5」や」とか言うて。初めて見るとみんなびつくりするけど、あんなもん、誰でもできるんや」
さすがに誰でもできるというのでは

「最初、授業できる道具が何にも無かった。そこから始まったんやな」
用具不足から始まった苦肉の策、だったんですね。

「せつかく男子校へ来たんやから、鍛えてやりたいっつちゅう気持ちもあつた。いい思い出を作つてやろうという気持ちもあつた」
確かに、トレーニングの記憶は多くの卒業生に共通する思い出です。

「名前がボンと出てこんけど、10分経てば全員思い出す。顔や体の動きはみんな覚えとる」
確かに、生徒たちの跳んだり走ったりする姿を目にするわけですから、記憶に役立つ情報の量も、他教科の先生方と比べて多いかもしれせん。

「体育の道具をいっぱい買ってからも、『続けていこう』ってことになった」
クラスも学年も入り混じった数百人の男子生徒が、独特のリズムに合わせて大声を上げながら、苦痛に耐える。世代を超えた海星OB共通の「懐かしい思い出」であるトレーニングも、

「学校で合宿するやん。泊まるのは柔道場。合宿やる頃、東亜紡の空き地で女工さんたちが盆踊りやっつとたんさ。そうすると、あつたところちでやりとりするわな。それが校長に見つかつてえらい怒られた」
当時から、いろいろなクラブが学校で合宿をしていました。

「あの頃はね、俺がいろんなクラブの合宿請負人みたいになつてさ、新しいクラブができたなら、それも一緒に引き受けて」
日体大出身の川村先生にとって、運動部が合宿をするのは当たり前のこと。そんな合宿の文化を海星に定着させたのも川村先生でした。

「すてきー」とか言うて」
女子生徒のいない海星の男子たちにとつては少々刺激的だったかもしれない。

今は軽めのメニューになつていようです。あんな経緯で始まったのでしょ。」「最初、授業できる道具が何にも無かった。そこから始まったんやな」
用具不足から始まった苦肉の策、だったんですね。

「深さが3m以上あつたから、それを生かして遊んどつた。底に寝てニタツと笑え」とか言うて。生徒は息を吸い込んで潜っていくんですよ。でも浮いてくるからできへんわけ。で、俺が息を吐いてやつてみせてニタツと笑つてさ」

「当時、海星の隣りに東亜紡の女子寮があつて。プールは女子寮のすぐ下やつたから、窓から覗いて冷やかしとつたわ。」

「体育の道具をいっぱい買ってからも、『続けていこう』ってことになった」
クラスも学年も入り混じった数百人の男子生徒が、独特のリズムに合わせて大声を上げながら、苦痛に耐える。世代を超えた海星OB共通の「懐かしい思い出」であるトレーニングも、

「学校で合宿するやん。泊まるのは柔道場。合宿やる頃、東亜紡の空き地で女工さんたちが盆踊りやっつとたんさ。そうすると、あつたところちでやりとりするわな。それが校長に見つかつてえらい怒られた」
当時から、いろいろなクラブが学校で合宿をしていました。

「あの頃はね、俺がいろんなクラブの合宿請負人みたいになつてさ、新しいクラブができたなら、それも一緒に引き受けて」
日体大出身の川村先生にとって、運動部が合宿をするのは当たり前のこと。そんな合宿の文化を海星に定着させたのも川村先生でした。

「すてきー」とか言うて」
女子生徒のいない海星の男子たちにとつては少々刺激的だったかもしれない。



▲お元気な川村先生。

旅のことなら・・・ (株)トラベラックス

三重県知事登録旅行業第 3-233 号
〒510-0833 三重県四日市市中川原 3-6-13
TEL:059-356-3100 FAX:059-356-3105
www.travelux.jp E-mail:info@travelux.jp



おいしさ・たのしさ・いいもの・いつでも

株式会社きゅうせい

☎ 059(347)8500



三重で結婚される方を応援

ブライダル 検索 三重

ラマリ

bridal-kensaku.com ラマリ 検索

株式会社ベイス

四日市市朝日町 3 の 2
プラザ 1986・3F
☎059>355-3939

急募

- ・グラフィックデザイナー
- ・Webデザイナー
- ・営業社員

株式会社 桑名総合警備保障

〒511-0834 三重県桑名市大字大福字宮東 356
TEL (0594) 25-1128 (代) FAX (0594) 24-8823



▲応接間でお話をうかがいました。

合宿といえば、海星には「志賀高原学年合宿」がありました。世代によってディテールの記憶は違っているかもしれませんが、長時間にわたるハイキングの記憶は幅広い世代に共通する思い出ではないでしょうか。

「合宿を繰り返すうちに、コースが増えて。地元の人にも『教えてくれ』って言うてきて、コース作りに貢献したんやに」

志賀高原の合宿は、自然について学ぶプログラムも組み込んだ総合的な内容でした。今でこそ全国各地で多くの学校が同様の行事を行っています。海星が始めた頃は全国的にも稀で、先進的な取り組みだったようです。

「普段叱られてばかりおる連中が合宿先で力を発揮できる場を見つけて、先頭に立つてくれたりして。ああいう場へ行くといろんなこと発見できる」

そういう、いわゆる「やんちゃ」な生徒たちにも川村先生は慕われ

ていた気がします。「横道に逸れていきそうなのもあれば、家庭環境の悪い生徒もおる。でも、みんな順調にいてもいいもんや」

そんな愛情が端々に表れていたからこそ、多くの生徒に慕われていたのでしょう。川村先生は、生徒一人ひとりと深い人間関係を結ぶことを通じて、信頼関係を作り上げていきました。

川村先生はカトリックの信者ではありません。しかし、目の前の生徒を、人として無条件に愛する。そのことから人間関係を構築し、生徒の成長を支えています。いうスタンスは、まさにカトリックの精神を体現したものであったといえるでしょう。

海星に勤めて44年。教育を取り巻く環境にも大きな変化があったと思います。「海星は私学だから、ある程度独自のやり方が許された。だから、定年になる10年くらい前からきたり、くい部分が出てきたね。柔道の授業も、柔道そのものより、護身術みたいなことを学ばせる感じ。ブリッジで首を鍛えたり、顎を引いて受け身を取る練習をする。で、1限終わる時に『調子が悪いやついないか』って。応全員の前に確認を

取っておけば、何かの時にええわけやんか」

世知辛い世の中になりました。

川村先生にとって「海星」というのはどういふ存在なのでしょう。

「まあ、自分が生きてきた証みたいなところがあるね。せつかく私学へ来た。男子校へ来た。転動がないから定年までここにおるかもしれない。就職したときさう思った。何か新しいことを植え付けてやろう、みたいなことを考えたね」

現場を愛していた川村先生だが、一九九二年からは管理職を務めることになった。「俺は現場の方がええ人間。生徒と接してる方がええよ、やつぱり」

それでも気持ち切り替えて、管理職を務められたのだと思います。

「朝から晩まで書類ばっかり見て、ハンコついてさ。そういうところが、続いて嫌やつたから、授業は楽しかった」

退職した今も、テニスや卓球で汗を流しているらしいです。家庭菜園も健康の秘訣かもしれません。

そんな川村先生の今の一番の趣味はギター。地元で「四郷キターサークル」を立ち上げ、現在も代表を

お務めです。練習はおよそ週1回。自ら演奏するだけでなく、合奏の指揮者としてタクトを振ることもあります。

「定期的に演奏したり、慰問活動したり。Youtubeにも動画を上げてあるよ」

しかし、失礼ながら海星時代の川村先生にギターリストのイメージはありません。ギターの始めは、何だったのでしょうか。

「ギターは大学の寮におった頃から先輩が弾いてくれるのが良くて、自分も弾いてみようって。そやけど卒業してからはほとんど弾かへんかった。たまたま定年になる直前に、市の無料講座っていうのが回覧板で回ってきた。家が内が勝手に申し込んだん。『定年になったらすることないで』って」

意外にも（失礼！）、ギターのキャリアは長かったんですね。しかし、奥様のお膳立てに素直に乗るなんて、川村先生、ちょっと可愛いですね（失礼！）。

「ところが、行ってみたらアコースティックやったんや。俺はクラシックやったから。でも2年くらい我慢してさ。で、講座が終わってから

「サークルを作れ」って言われて」

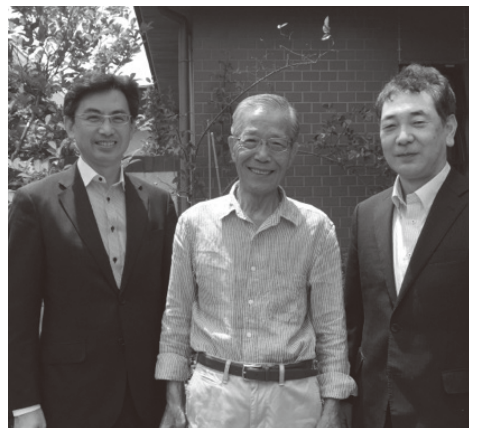
サークルの仲間にも面倒見の良さというイメージを見込まれたのかもしれない。

「俺はクラシックがやりたい。『やりたい人はこの指とまわって、それから16年前で、それからずっとやってる。だから平均年齢は70歳』

現在は洋楽ポップスなども取り入れ、レパートリーは数十曲に上るのだそう。ソロ曲もあればアンサンブル曲もあり、様々なスタイルでギターを楽しめるそうです。

「演奏し終わったら『先生！』ってステージの下へ握手しに走ってくるやつがおってさ。よう見たら一番最初に授業を担当したやつやった」

そう話してくださる川村先生は朗らかな笑顔で、誇らしげでもありません。



▲左から樋口博巳(32回生)、川村浩晏先生、水谷一郎(32回生)。

して卒業生が気軽に声をかけてくれることは、先生にとっても幸せなことには違いありません。いくつになっても恩師を「先生」と敬愛して付き合える幸せ。いつまでも「海星の生徒」でいられる幸せ。それは海星が長年にわたって培ってきた校風によるところが大きいと思います。

「海星を卒業して良かったって思ってた。そのためには海星の良さを無くさんようにせん」と

目の前の生徒に正面から向き合い、愛を持って接する。学校を愛し、より良くする努力を怠らない。それが川村先生の海星での44年であったのだと思います。我々OBが感じていた海星の良さの源は、まさに、川村先生が大切にしていたこと、そのものではないでしょうか。

なつかしい味・三重の味

風流うどんそば料理

うたあんどん 歌行灯

四日市でご愛顧33年・桑名では140年

<http://www.utaandon.co.jp/>

四日市ときわ店 (松本街道ときわ小前)
四日市市城西町 7-40 tel. 059-353-5811

本店 (桑名駅より三交バス5分または徒歩20分)
桑名市江戸町 10番地 tel. 0594-22-1118

桑名駅前店 (桑名駅より徒歩5分)
桑名市中央町 1-31-1 tel. 0594-21-1117

大山田店 (クオレ大山田ガーデン)
桑名市松ノ木 3-7-1 tel. 0594-31-1116

美術部・陶芸部OBが ゆるやかに連帯

ゆるやかな連帯の兆しを見せていた美術部・陶芸部OBが、昨秋の海星祭に参加しました。

きっかけは同部の企画「ミナリッチ」の20周年を機に、後輩たちを応援すべくOB有志が集まったことでした。

そもそも「ミナリッチ」は現役部員の作品や授業作品を鑑賞しながら、ティータイムを楽しんでからおうちというカフェ企画。店内で使われる器は、全て現役部員や顧問の先生方による手作りの「コーヒーカップ」で希望すればそのまま持ち帰ることもできます。

少子化に伴う部員数の減少等も影響し、多数のカップを用意することが困難になっているという現状を踏まえ、OBたちが自作のカップを提供しようという立ち上がったのが今回のプロジェクト。

卒業後も趣味で陶芸を続けている小林弥大さん(51回生)が成形・素焼きしたカップ約百二十個を集めたOBたちが半



▲OBたちのセンスが光るコーヒーカップ。

日がかかりで絵付けをしました。市松模様やボーダー柄などシンプルなものもあれば、取っ手が鼻に見えるようユーモラスな顔を描いたものもあり、デザインや色合いは多彩。本焼きも小林さんが自宅の窯を使って行いました。

搬入に当たっては小林さんが1歳のお子さんを含む家族3人で梱包を行い、海星祭の前日に完了。荷下ろし作業には、現役の部員たちも協力してくれました。

祭当日は、現役部員、顧問の先生方、OBの作品が所狭しと並び、会場を訪れたお客さんは品定めにくるほど。「見

てるだけで楽しい」というお客さんの声は、現役部員だけでなく、OBたちも喜ばせてくれました。

当日も会場を訪れた小林さんは「顧問の先生と子育てや健康の話題で盛り上がりました」と感慨深げ。先生と生徒がそんな話題に花を咲かせられるのも年を重ねたからこそ。母校を訪ねれば恩師に会えるというのも海星ならではの魅力です。

「ミナリッチ」への協力を軸に連帯し、現役部員ひいては海星全体を温かく応援する。OBたちはそんな活動を目指しているのだそう。今年も、提供する作品を通じてOBたちの「今」を紹介するとのこと。先輩たちの歩みに触れることは、現役生のキャリア教育にも大いに役立つことではないでしょうか。

活動に興味をお持ちの美術部・陶芸部OBのみならず、担当・松井さん(20thproject@gmail.com)または同窓会広報委員会までご連絡ください。

なお、OBたちが制作したカップの売り上げは、顧問の先生を通じて全額「星の窓基金」にご寄付いただきました。

海星祭 バザーへのご協力をお願い

今年度の海星祭は 11月12日。

毎年大好評いただいたとおりです。同窓会バザー&模擬店今年も開催決定！バザー商品の充実度は同窓会員の皆さまからご提供いただく品々によって決まります。ご家庭の押し入れや仕事場の倉庫に眠る贈答品や販促グッズなど、未使用品であれば何でも構いません。どしどしご提供

「星の窓基金」は経済的困難に直面する在校生を支援する目的で設立された、会員の篤志による同窓会独自の教育奨学金基金です。昨年度は別掲会計報告の通り運用いたしました。

基金の趣旨にご賛同いただき、更なるご協力を賜りますようお願い申し上げます。(同窓会長・山下

植木屋のおばちゃん、川村浩晏先生、浦和に思いを馳せしたOBたち。編集に携わるたび、昔も今も海星を愛し、支えて

編集後記

また、当日のスタッフも大募集！店頭で声を張り上げたり、やきそば鉄板と格闘したり。母校で青春がよみがえる一日になりますよ！詳細につきましては担当・水谷(電話：090-4193-4490) 他同窓会本部役員までお問い合わせください。なお、当日の収益金は星の窓基金を通じて在校生の支援に役立てます。

星の窓基金 中間報告

邦男/星の窓基金担当委員長・小川(真也)

- 募資金額 1口 一、〇〇〇円 (何口でも結構です)
- 払込方法 郵便局備付用紙にてご送金ください
- 払込口座 口座番号 0089004-135244 口座名称 海星高等学校同窓会

くださる方々が大勢いることを実感します。その愛は在校生だけでなく卒業生の皆さんにとっても力となるはず。いつもそう思います。(広報委員会・上田周平)

海星高等学校同窓会「星の窓基金」特別会計報告 平成27年9月1日～平成28年8月31日迄

科目	金額	科目	金額
繰越金	2,950,273円	運用貸付	150,000円
個人寄付	0円	郵便代	0円
海星祭/バザー等	179,845円	事務経費	0円
チャリティーゴルフ寄付	53,500円	繰越金	3,335,010円
総会・会議他	5,000円	合計	3,485,010円
運用貸付返済	296,000円		
その他	0円		
利息	392円		
合計	3,485,010円		

海星高等学校同窓会会計報告 平成27年9月1日～平成28年8月31日迄

科目	金額	科目	金額	摘要
繰越金	5,916,540円	会議費	358,816円	役員会及び各委員会
入会金	1,770,000円	賛助金	20,000円	在校生支援
賛助金	309,163円	通信関係費	1,200,693円	郵送料等
総会費	484,000円	HP管理費	239,004円	ホームページ管理
会議自己負担金	117,000円	卒業記念品費	149,040円	キーホルダー
広告収入	460,000円	慶弔費	52,247円	香典生花
預金利息	802円	雑費	83,763円	文具、その他
合計	9,057,505円	総会費	916,642円	総会関係費用
		小計	3,020,205円	
		繰越金	6,037,300円	
		合計	9,057,505円	

小林秀輔税理士事務所

TEL: (059)353-3232
MAIL: 105@k-kaikei.jp

不動産に関するご相談など、お気軽にお申し付けください。

N AREC 株式会社 中村不動産 宅地建物取引業免許
三重県知事(10)第1221号
本社 / 三重県四日市市芝田1丁目10番10号
0120-928-916 www.narec.co.jp

検索サイトからキーワードで検索!
narec 不動産 検索

おじいちゃん、お父さん、ぼく。わが家は3世代そろって海星です！そんなご家族を大募集！
自薦他薦は問いません。至急ご連絡ください！(電話:070-5407-3925 / 担当:上田)